

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	淀川区
学校名	大阪市立東三国小学校
学校長名	竹本 弥生

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立東三国小学校では、第6学年 46名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

対全国比の平均正答率では、国語科、算数科ともに大阪市平均・全国平均を大きく上回った。

平均無回答率は、今年度も国語科・算数科ともに大阪市平均・全国平均を下回る結果となった。児童は、問題解決に向けて粘り強く取り組む姿勢が定着しつつあるといえる。

また、国語科は選択式問題より記述式問題の正答率が上回ったが、算数科では記述式での正答率が選択式よりも大きく下回っている。国語科・算数科ともににおける記述式での正答率は大阪府平均・全国平均を上回る結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

「書くこと」「読むこと」領域において大阪市・全国平均正答率を上回り、「話すこと・聞くこと」領域において大阪市・全国平均正答率に及ばなかった。「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る」問題では全国平均を13ポイント以上上回る正答率であった。一方で、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかを見る」問題では全国平均を7ポイント下回る正答率となった。自分の考えを適切に表現する力に課題があるといえる。

〔算数〕

すべての領域において大阪市・全国平均正答率を上回り、「数と計算」「変化と関係」領域において全国平均を10ポイント以上上回った。「除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかを見る」問題では全国平均を17ポイント以上上回る正答率であった。一方で、「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまる言葉と数を用いて記述できるかどうかを見る」問題では大阪市・全国平均を5ポイント以下下回る正答率であった。情報を読み取り解答を導き出す力に課題があるといえる。

質問調査より

「人の役に立つ人間になりたいと思う」の質問項目に肯定的に回答する割合が全国平均・大阪市平均より高かった。これは、子ども同士のかかわりを大切にした授業づくりや、たてわり班活動をはじめとした望ましい集団づくりを続けてきた成果として捉えることができる。

一方で、授業時間以外の学習や読書について、全くしない割合は大阪市平均を下回っているものの、1時間以上の学習に取り組んでいる割合は大阪市・全国平均を下回っている。家庭での学習時間を確保する方法を保護者とともに考えていくことが課題として挙げられる。

今後の取組(アクションプラン)

- 「学びサポーター」を有効に活用し、個に応じた学習支援と指導の充実に努める。
- 個別最適な学びと協働的な学びを往還する授業づくりを進める。
- 児童が意欲的に学べる課題設定などの授業改善を進め、主体的・対話的で深い学びの実現・充実をめざす。
- 学習習慣の定着のため、家庭学習の重要性を保護者に啓発する。